

本愛

発行
天理教本愛大教会

〒453-0821
名古屋市中村区大宮町1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

「少年会 縦の伝道講習会」より

少年会本部委員 榎井功能先生

立教188年6月の入社祭後に「少年会縦の伝道講習会」が開催された。講師には少年会本部委員の榎井功能先生が登場した(写真左)。講話の一部を要約して紹介する(左記QRコードから動画でもご覧いただけます)。

自宅の講社祭に葡萄のお供えをさせていただくことがあります。お下がり葡萄を家族で食べようとしたとき、8歳の長女が「葡萄ってそれぞれが枝にくっついてるんだね」と素朴な一言を口にしました。確かに葡萄は一つひとつの果実同士が繋がっているわけではなく、果梗と呼ばれる枝に繋がっています。そうした葡萄の姿を思うとき、お道の信仰も親神様

続きは  YouTube
本愛大教会
公式チャンネルへ

少年会
縦の伝道講習会



少年会本部委員

榎井 功能 先生



※上記のQRコードを読み取って、ご覧ください。
本愛誌の読者限定で公開している動画ですので、チャンネル内の動画一覧からはご覧いただけません。

年間活動目標

今日を陽気に。
つながる、
つなげる。

教祖、ぢばに繋がるからこそ結構な御守護を頂けるのだと思います。根っこに、そして元に繋がるからこそ、元気を頂戴して結構な実りが得られる。そうして、後々に繋がる、楽しみの種も頂戴できるのだと思います。そんなことを子供の何気ない言葉から気付くことができます。

子供にお道の信仰を伝えるには、親自身が親神様、教祖のもとへ運び、その姿が子供に映って伝わってきます。そうした親の姿を映していくことが、その子供が将来、信仰を身につける上には非常に大切です。子供に信仰を伝えようと思うと、「分かるようになったら伝

えようかな、まだ早いかな」と考えがちですが、まだ物事を理解できない幼い頃から親の背中を子供に映して、子供の傍について導いていくことが重要です。(続きはYouTubeから)

うちわけ会団参 各教会が続々と

6月を強調月間と定めたうちわけ会おぢばがえりが各教会にて実施された。帰参者たちは東礼拝場でおつとめを勤めた後、おやさとかた東棟西側でのひのきしんに汗を流した。次回の強調月は11月に実施される。



うちわけ会団参のひのきしんの様子

7月のこよみ

入社祭

1日 午前10時

よふき会例会

2日 午前10時

鼓笛隊練習日

6日 午前10時

月次祭

13日 午前10時

青年会例会

13日 午前10時

布教実修所

14日 午前10時

むつみ会例会

16日 午前10時

こども食堂MOGU

17日 午後5時

婦人会例会

20日 午前10時

鼓笛隊練習日

20日 午前10時

女子青年例会

21日 午前10時

本部月次祭

26日 午前9時

こどもおぢばがえり

27日〜8月3日

習字のOKEIKO

華水教室

5週目を除く毎週木曜日

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人

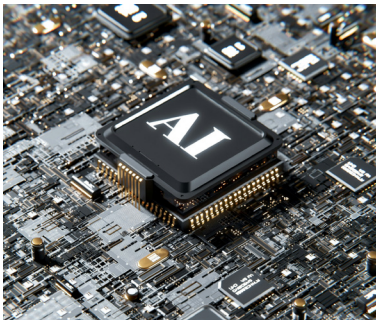


AIが日常生活の中に普及してくることに伴って、「普段の会話の相手になっ

てもらっている」という人が増えているそうです。話を聞いて早速私もスマートフォンにアプリを入れて使ってみると、すごく会話がはずむことに驚きました。

悩み事があるときも、相手に寄り添うように言葉を返すので、「心が楽になった」と話す人もいますようです。私たちのおたすけも、AIに取って代わられることがあるのかもしれないと感じました。

AIを動かしている深層学習という仕組みは、インターネット上にある膨大な量の言葉を学習させること



で、ある言葉に続くであろう言葉を確率的に推測して発話しています。つまり、たとえばブツダが話した言葉だけを学習させて質問を投げかければ、ブツダが「話すであろう答え」を返すことができるそうです。

私はこれを聞いて、「教祖AI」が生まれるのも時間の問題だろうと思いました。また、初代会長様の身上さとしに似たようなことも、AIにさせることが可能です。

こうしたことを悪いと捉えるか、良いことと捉える

かは人それぞれですが、少なくとも私は、日々進化する新しい技術や物事に対して、ネガティブに捉えてばかりではいけないと感じます。それらをうまく活用した、まったく新しいおたすけのあり方、にをいがけの方法を考えていくことのほうが重要なのではないでしょうか。

感謝と称賛

先日もお話をしましたが、明治時代などと比べれば、社会は格段に良くなっています。青少年の犯罪率ひとつ取ってみても、近年は劇的に減少しています。

ただ、一方でひきこもり率が高まっているなど、時代に応じた課題や問題があるのも事実です。だからこそ、いまの世の中の「結構」なあり方にまずは感謝をしつつ、新しい時代に即した「ようぼくの道」を考えることが大切なのだと思うの

です。

社会の進展、新しい技術が出てきたときに、まず否定的に捉える風潮がありますが、私は「こんなにありがたいことはない」というスタンスでありたいと思っています。

お道の人に必要なことは「感謝すること」と「称賛すること」だと思います。何に対しても感謝の心を持ち、誰に対してもほめる。「あなたのそこがすごいね」と

ほめられて嫌な気持ちになる人はいません。案外おたすけとは、そんな簡単なことから始まるのではないのでしょうか。AIに感謝の言葉を述べさせることはできますが、AIそのものが何かに「感謝」をすることはありません。言い換えれば、人間だからこそ、できることなのです。

この二つがこれからのキーワードになるのではと考えています。

公式サイトとYouTubeをご活用ください！

こんなに便利



- 大教会の行事日程を確認
- 本愛誌最新号とバックナンバーをダウンロード
- その他お知らせ

楽しく学ぶ



天理教 本愛 Q 検索

- 祭典の様子をライブで視聴
- 大教会長の連載動画
- 神殿講話の限定配信

教理随想

言わん言えんの理を探る



教祖百四十年
祭まで残すところ半年余りとなりました。三年千日から考える[と](#)あと半年は短く感じるかもしれませんが、逆にいえばまだ半年あるといえます。それは運命切り換えのきつかけをつかむのに十分な期間で、そのための要点を考えてみたいと思います。

*

人は誰でも幸せを求めます。しかし幸せの定義となると百人いれば百通りで、一様に定めることは難しい。そこで見方を少し変えて、「つながり」という観点から

ら幸せを考えてみましょう。

つながりとは、言い換えれば「縁」です。端的に言えば、自分がつながりたい縁がつながって、切れてほしい縁が切れる時に、人は幸せを感じるのではないのでしょうか。つながりたい縁とは、良き縁談や就職、円満な人間関係、そして金銭との縁です。反対に切れてほしいのは、望んでいない人や物との縁、また病気とのつながりといえます。

これを「十全の守護」から考えると、つながりの働きはくにさづちのみこと、切る働きはたいしよく天のものが司っておられます。ですから両方のご守護をバランスよくいただければ、思うことが思うようにつなが

△

ったり切れたりします。その働きを頂戴する元は銘々の心の使い方にあるのですが、具体的にどんな心使いが大切なのかを知らなければ、ご守護の姿を見せていただくことはできません。

まずくにさづちのみことの働きをいただく心使いは、その守護に示される通り、徹底して「つなが」心です。家族や職場や地域の人々とのつながりを大切にし、そのために貸し与えられている言葉という道具を、相手の心情をよく見極めて上手に使う努力が肝要です。

良縁がつながるためのもう一つの要因は、親神様と人間との間をつなぐ役割を果たすことです。つまり親神様の存在を知らない人に

神名を伝え、信仰の喜びを広めることがつながりの役目です。さらに進んで、病气やケガで苦しんでいる人におさづけを取り次ぐこともつながりとしての重要な役割でしょう。

■「心繋ぎ」が第一

またもう一つ重要なつながりは、おぢばに心をつなぐ信仰の心にあります。今年は年祭活動仕上げの年としておぢばがえりが強調されていますが、これを単なる行事と捉えるのではなく、日々の信仰生活の中に喜びを見出して周囲に伝え、未信仰の人をおぢばがえりに誘う。あるいは、お道から足が遠のいてる人に心をつないで、「うちわけ会おぢばがえり」にお誘いする。こうした努力がつながりの種として神の田地に蒔かれ、やしきハかみのでんぢやで、まいたるたねハみなはへる (七下り目8)

と教えられる通り、そこから夫婦円満、家庭円満という芽が吹いてくるのです。

一方、切る努力とは何か。それは、自分の悪しき癖性を断ち切ることです。しかし現実にはこれがなかなか難しく、一朝一夕にできるものではありません。そこで先に述べたつながりの働きを、人一倍心を込めて実行するのです。そうすればいつしか癖性が少しずつ薄れて丸い心になり、悪いんねんが納消されて、その結果、大きな船がゆつくりと進路を変えて進むように運命が切り換わっていく。これが信仰のありがたさであります。おさしづに、
…心繋ぎが第一。すつきり繋いでくれるなら、万事これより道という。
(明治30・11・27)
とあります。あと半年、自分と身近な人の運命好転を念じながら、つながりの役割を果たしていきましょう。

【第126回】

つなぎの役目に徹する心が 運命切り換えの道を開く

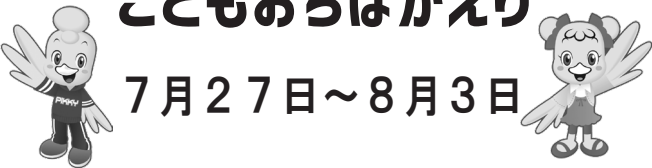
5月のおさづけの理拝戴者
奥田新児（本和合）
オクダ・マリエ
・エレンバサネス
（本和合）
進藤新生（本愛守）
角田綾菜（本愛福）

名愛分教会二代会長
都築隆三郎之霊の十年祭
名愛分教会では5月17日
午前11時より、二代会長・
都築隆三郎之霊の十年祭が
大教会長を祭主として同分
教会で行われた。

本名分教会四代会長
出口道男之霊の五年祭
本名分教会では5月25日
午前11時より、四代会長・
出口道男之霊の五年祭が同
分教会で行われた。

お出直し
横井敏江氏（本心部属・本
心朋分教会初代会長）
6月17日に出直された。
享年82歳。告別式は6月19

立教 188 年
こどもおぢばがえり
7月27日～8月3日



お詫びと訂正
6月号4頁掲載の「4月のおさ
づけの理拝戴者」において、誤り
がありましたのでお詫びして以下
の通り訂正いたします。

（誤） 4月のおさづけの理拝戴者
↓（正） 4月の初席者
広報部

日午前12時より、長江邦
彦・本心分教会長を齋主と
して執り行われた。

大 教 会 日 誌		令和7年5月24日～令和7年6月24日	
5月		12日	常任役員会議
24日～25日	ほんあいキッズキャンプ	13日	月次祭
	於：国立乗鞍青少年交流の家（参加者52名）		祭主 大教会長 扨者 田中新一、吉田克義
26日	本部月次祭		指図方 大橋進 賛者 大池美公雄、杉下和平
6月			◇祭典講話―大倉光晴
1日	入社祭		◇大教会長挨拶
	祭主 大教会長 扨者 杉村善男、伊藤寿輝		青年会例会
	指図方 青木健裕 賛者 中島裕信、出口順一郎	14日	布教実修所
	◇少年会縦の伝道講習会	16日	むつみ会例会
	講師一少年会本部委員・榎井功能先生	17日	こども食堂MOGU
	◇大教会長挨拶	20日	婦人会例会
2日	よふき会例会	22日	女子青年例会